令和六年一月吉日初版作成

自分を磨く

高嶋善三郎

目　　次

●自分を磨くということ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
●すべてに把われない自由自在心になる・・・・・・・・・・・４
●自由自在心と漏尽通の生き方・・・・・・・・・・・・・・・・５

お　願　い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウエブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお願い致します。

（スマホ）０９０-３３４６-６６１９
（メールアドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

自分を磨くということ

『如是我聞』３３１に「自分を常に常に磨くことに心がけることです。いくら磨いても、これで良いということはない。」という五井先生のお言葉がありますが、自分を磨くということについてもう少し詳しく説明してくださいというご要望がありました。そこで、私の理解しているものについて整理させていただきます。

自分を磨くこととは、自分の本心（神聖）を認め、現わすことです。本心（神聖）とは、大自然の根源の働きをする生命を、その智慧能力で、大調和達成のために生かしきってゆく働きです。この神本来の神聖の世界は、愛深き心、美しく清らかな心、真をつくす心、善事をなす心等々、すべて人間生活を高め、深める心のひびきの世界なのです。

自分を磨くことは、いくら磨いても、これで良いということはない理由は、進展するアセンションの今日、人類の誤てる想念によって現わされてくる自然災害や民族間の紛争などを最小限におさめ、浄めるためには、私達神人は神聖意識を常に輝かせていなければならないからです。

そのためには、自分が本心と一体になることが不可欠で、そのための取り組みが必要なのです。一般的な例で整理してみましょう。

私達は、自分の運命や周りの環境や人たちの影響を受けやすく、自分の本心から離れ、なんとなく不安や恐怖や怒り悲しみなどの感情想念の中に入りこんでしまい、苦悩しがちになるものです。

このような事態は、私達の過去世から現在に至る誤てる想念が消えてゆく時に起こる現象なのですが、この姿を自分自身だと思い込む程度に応じて、苦悩の大きさが変って来るのです。

この誤てる想念は業生とよばれているもので、私達が神の分霊（魂）として、この未開の波動の低い世界に降りてきたとき、私達分霊自身が発する高い波動の光を浴び、低い波動の想念の世界が崩れて光に還元されてゆく時起こる姿であり、その業想念は消えてゆく時に不安恐怖を発するのです。業想念は、その姿を私達が自分自身だと誤って受け止めたことにより生じたものなのです。

いったん誤って受け止めてしまったものは、神のみ心により、現わされて光に還元され消えてゆくことになっているのですが、私達がそのことを理解できず、その業を抑え込もうとしたり、自分の想念で消してしまおうとすると、その想念のエネルギーにより、業はさらに厚くなり、再び現わされてくるという悪循環を繰り返すことになるのです。

では、この悪循環をどのようにしたら断ち切れるのでしょうか。

この真実を理解し、私達分霊が天命を完うさせるために守護されている神霊の力を借りるのです。

守護の神霊に、「この誤てる想念を手放します」と宣言すると、守護の神霊は、私達の脳天にある第七チャクラを覆っている、業想念を私達の親神様の光の中に入れて光に還元してくださるのです。

誤てる想念が現われるたび、この取り組みを繰り返しているうちに、消えてゆく姿に伴う苦悩は実体のないものであることが実感できるようになり、それにつれ、私達は、光そのものであり、愛そのものである本心(神聖)が自分自身だと直観できるようになるのです。

そして「肉体を動かしている生命と、宇宙に充満している生命、即ち宇宙神と直霊―分霊が結びつき、神の力がそのまま流れてきて、地球を覆う迷いを消す」ことになるのです。

すべてに把われない自由自在心になる

この業想念を光に還元する想念行為において、常に留意するべき点について、参考になる解説があります。

『宗教問答７９』「白光二月号の研究会の記事の中で霊界の相当のところにいながら、まだ解脱していない仙人がいるとありましが、なぜ解脱できないのでしょうか。今少しくわしく現界の私達にわかるようにご説明ください。」から整理します。

ここで、五井先生は、多くの行を積んでも、解脱できない仙人の例を通して、解脱して自由自在心を得るには、自分のあらゆる癖や把われを手放すことが大切であると言われています。

「仙人と一口にいうと、もうすでに多くの行を積んで解脱し得た人と思われるかもしれないが、いかに多くの行を積んでも、それで、解脱できるものではない。表面的にはなんらの宗教的な行を積まぬように見える農家の老婆などが、すっかり解脱して、霊界入りすることもある。

解脱ということは、すべての執着を離れ去る、つまり自由自在な空（くう）の境地になることなので、自力行の人々にはなかなか大変なことなのである。この仙人などは、まだ一つの型にはまった修行を霊界入りしてからもやりつづけているので、その型から脱けでられずにいるのである。いかに通力をそなえていても、自己の心に少しでも何らかの把われがあれば、それは解脱したことにはならぬのである。

人間の魂には、それぞれの特徴があり、個性と呼ばれている性格の相違がある。それ故誰でも彼れでも釈尊のようになれ、イエスのようになれと云っても、これはどうにもならない。

人を導くのにも厳しい形の人と、柔和な導き方をする人がいて、それぞれの人に因縁の合う人が集まってゆくので、人間は柔和一本槍でなければだめだとか、峻厳でなければいけないとか、言い切れない。

だから、お互いの個性を生かしきって、解脱への道を歩み続けるのだが、解脱するためには、自らの個性がつくりだした一つの型をも超え去らなければいけないのである。

仙人が様々な修行の末、一つの型をつくりだし、その呪法なり、座法なりで修業をつづけている場合でも、解脱の境地になれば、その呪法なり、座法なりをも一度は超え去ってしまわなければならないのである。」

そして超え去っていく方法について、次のように解説されています。

「一度び超え去って、今までの自らの手法に何らの執着も無しに、その呪法なり座法なりを行っているとすれば、それは自由解脱の心境から行じているので、心は自由自在そのままその呪法なり、座法なりの中で生き生きと働いていることになるのである。

今日私が説いている世界平和の祈りにしても、消えてゆく姿にしても自然法爾に守護神各位から説かれているのであって、私自身は全く赤児のような、否もっと空っぽの心の状態で生きている。故に私には、私自身なんらの型も呪文も無いので、私自身はただ全託というその全託の想念も無い心の状態で働いている。もっと詳しくいうと、私自身が私の想念として世界平和の祈りを唱えているわけでも、神様と言っているわけでもなく、ただ生命の生きるまま、ここにあるがまま生き続けているのである。しかしそうした生き方が、自ずから常識を外さず、常識を超える霊肉一体の調和した姿となって、この世と神の世とをつなぐ光の柱の役目をなしつつあるのである。」と言われています。

自由自在心と漏尽通の生き方

真の解脱とは、すべてに把われない自由自在心ですが、この心境は、神通力では、漏尽通と言われているものです。

漏尽通とは、この世のこと、肉体世界のあらゆる汚れを浄め去り、なにもの何事にも把われぬ、澄み切った心境をいうので、六神通力のうちでも最高の通力と言われています。無礙自在、自然法爾、行雲流水、み

なこの漏尽通から出た生き方なのです。

ここで六神通力の、漏尽通以外のものについて、見てみましょう。

神通力というのは、いわゆる神に通じる力、神からきている能力であり、霊能力というものではなく、神のみ心を現わす能力なのです。我欲のためにその能力を使うような人々は神通力者とはゆかないのです。

神足通…その身は東京なら東京にいながら、アメリカへでもソ連にでも自由にいかれる能力。それは相手の人にははっきり現れる場合もあり、波動（ひびき）として、霊的な姿として現れる場合もある。釈尊の十大弟子の一人である目連尊者などは、その代表的な人であり、インド行者の中にも、日本の仙人といわれた人々のなかにも、西欧諸国のなかにも、そうした霊能力をもった人は存在いたし、現在もいるのである。

他心通・・・他人の心の中が、思っていることが見撤せる能力のこと。この能力は、大なり、小なり何人にもあるが、見撤せるというほどの能力も持つ人は少ない。直観力ともいえるがいわゆる霊能者といわれる人々の誰も、若干ずつでももっている能力であるが、本格的な他心通の人は数少ない。

天眼（げん）通・・・神霊の眼で観る通力のこと。遠隔の地のことも、肉眼でみえぬ事物生物をも観うる能力のことをいう。勿論神界霊界という他界のことも観える。

天耳（てんに）通・・・神々や霊人のひびきが、耳に聞こえるようにわかってくる通力をいう。これは幻聴といわれる状態とは全く異なる悟道からくる能力である。

宿命通・・・自他の過去世での想念行為がわかる通力をいう。あなたは前生では藤原某の息女〇〇姫で、これこれしかじかのことをしていた、というようなことがわかる能力である。この能力は、人類のはじまりをも分かり得る能力ともなり得る。（『続宗教問答』問１３０「神通力とよくいいますが、この神通力には、六つの通力があるそうですが、その一つひとつについてお教え下さい」）

ここで、五井先生は、私達がまずこの漏尽通の心境になることを勧められており、その他の通力は、その後でよいと言われています。

悟りを極め、神聖を輝かせ、私達の天命を完うするためには、修行により神通力を得ることによってではなく、祈り等により自分の把われを手放し、自由自在心になることである。その結果神通力は、人それぞれ必要に応じて自ずと授かっていくと言われているのです。そして誰もが最初に授かる神通力が漏尽通ということでしょう。